



会派清新
柴田 文男

台風9号に対する危機管理の在り方について

質問 8月23日午後には深川市納内で石狩川が氾濫した。この日、市長は東京への出張をキャンセルし、危機管理を優先した。当然とはいえ適切な判断であり、敬意を表したい。一方で、翌朝には市の災害対策本部を解散する予定があったと聞く。結局、翌24日朝に解散したが、これらの意思決定の過程について伺う。

答弁 8月19日から影響があった台風11号、9号関係では、20日に大雨・洪水警報の発令を受け、16時に災害対策本部を設置しました。その後、23日朝には、台風9号が網走市付近まで北上したことから、その後の警報発令の見込みがなくなり、空知川の水位も昼頃には下がるとの予測を受けて、23日朝に災害対策本部解散の条件が整ったところですが、引き続き現状を維持し、河川の状態を見守ることと

しました。その後、石狩川で水位の上昇が見られたことから、夕刻、災害対策本部会議を開催し、24日朝まで状況を見守ることとしました。翌朝水位の下降が確認され、午前8時30分に本部長の決定により災害対策本部を解散しました。

中心市街地の再開発について

質問 栄町3―3地区が関係者の努力により、順調な進展がなされている一方で、栄町のみならず、本町地区などにおいて建物の老朽化が進み、その果たすべき機能も失われつつある。この中心市街地に新たな息吹を吹き込むために、新たな政策が必要と考えるが、市の考えを伺う。

答弁 ご指摘のとおり、再開発を必要とする街区があると考えます。人口減の抑制、防災、景観の維持、都市の継続的發展などの観点からも重要なことと考えますが、地権者を中心とした再開発の機運づくりには多くの時間を要し、行政が果たしうる役割は限定されます。今後適切に情報収集しながら、支援を行っていきたいと考えています。



会派みどり
山本 正信

樹園地振興対策について

質問 江部乙の果樹園は、今回加盟した日本で最も美しい村連合の加盟要件となっているが、近年高齢化や後継者不足などにより設備投資も難しく果樹園の離農、廃耕が目立っている。そのため本市では、苗木の助成などを実施した経過はあるが、加盟要件でもある樹園地存続のためにも、例えば、元気な農業づくり補助金の一定額を果樹振興のために活用することができないのか伺う。

答弁 本市の樹園地については、近年、高齢化などにより、戸数、面積ともに減少している状況です。現在、果樹農家が使用する農業機械の更新には、経営体育成事業など国の補助制度の活用が可能です。が、成果目標の水準が高いことなどから、希望があっても補助事業の活用ができない場合が多く、農業機械を中空知農業共済組合の貸付事業で導入している事例もある

と聞いています。本市の独自策として、元気な農業づくり補助金の中に樹園地維持のための事業を追加し、りんごの苗木購入や、せんてい枝の破碎機の購入助成を行っています。が、現在のところ、これ以外の助成は行っていません。

今後、国などの助成事業の活用を図りながら果樹農家にとって使いやすい補助メニューとなるよう検討したいと考えています。

離農防止対策について

質問 近年の農産物価格の低迷・過剰な設備投資・規模拡大などにより、離農される方が後を絶たない。JAたきかわの営農指導だけでなく、市としてもJAたきかわと連携し、この対策をすべきと思うが考えを伺う。

答弁 本市においても農業経営の環境は厳しく、市やJAたきかわにおいては、国の農業経営安定対策を実施しています。

今後関係機関と連携し、農業者の経営改善やさまざまな情報の収集・提供を行い、農業者の要望に沿った相談が受けられるよう支援していきます。